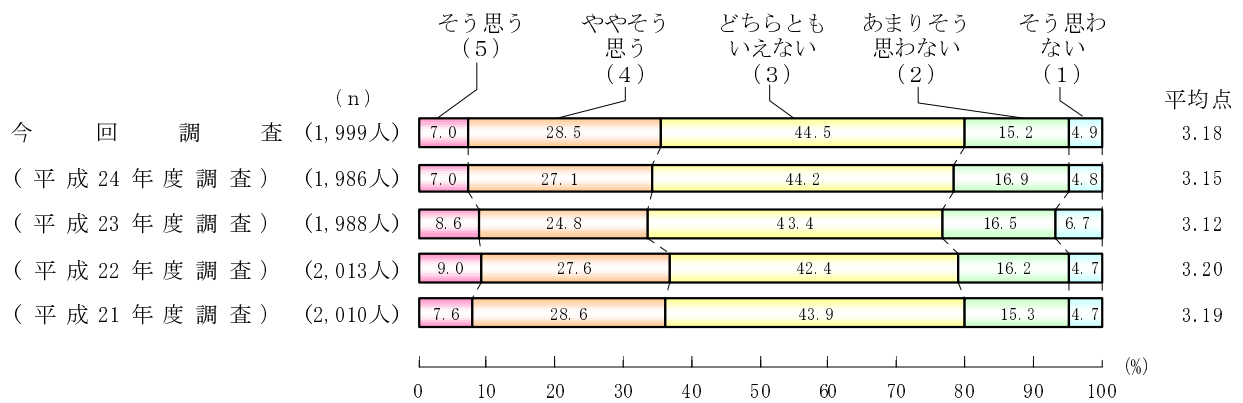
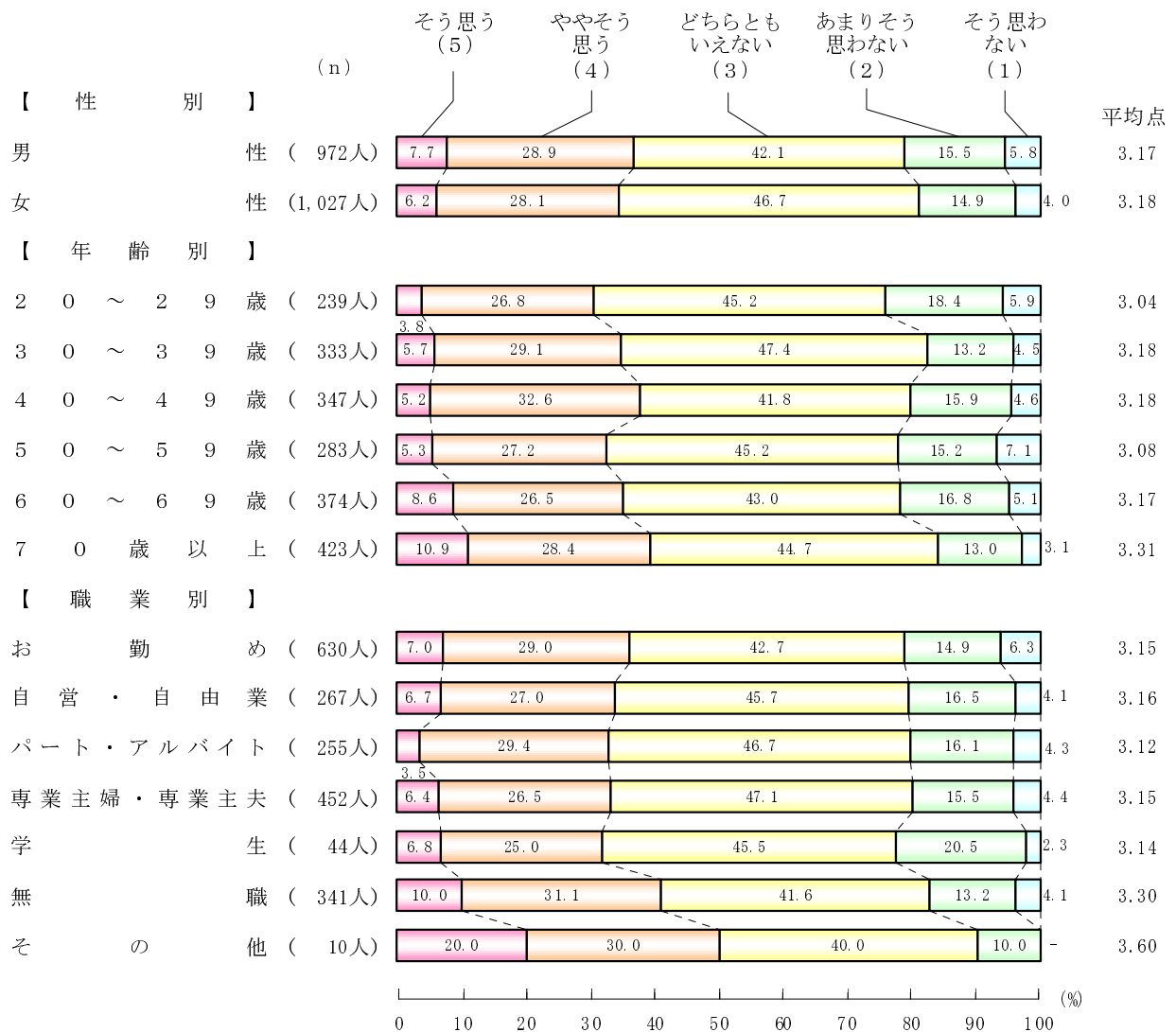


Q 4 (f) 事件の真相が解明されている

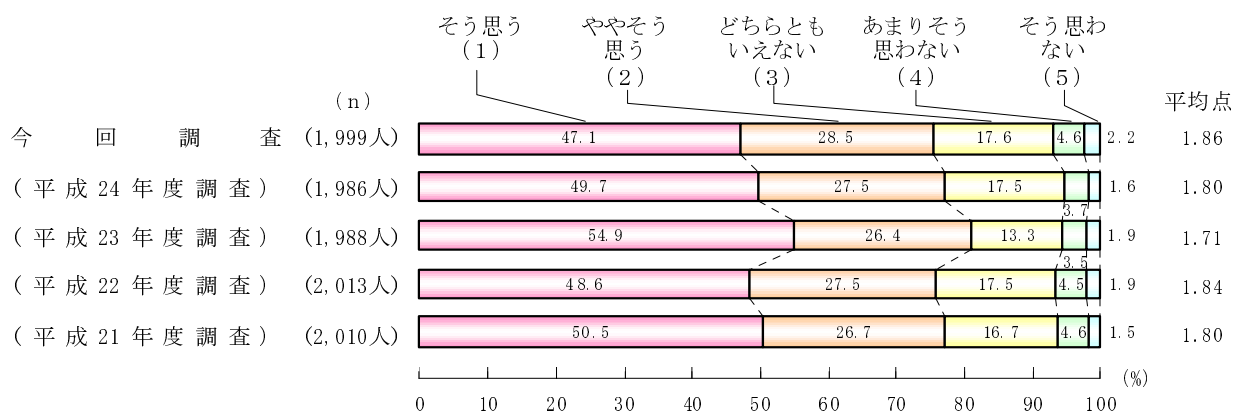


裁判員制度が始まる前の『事件の真相が解明されている』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は35.5%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は20.1%である。

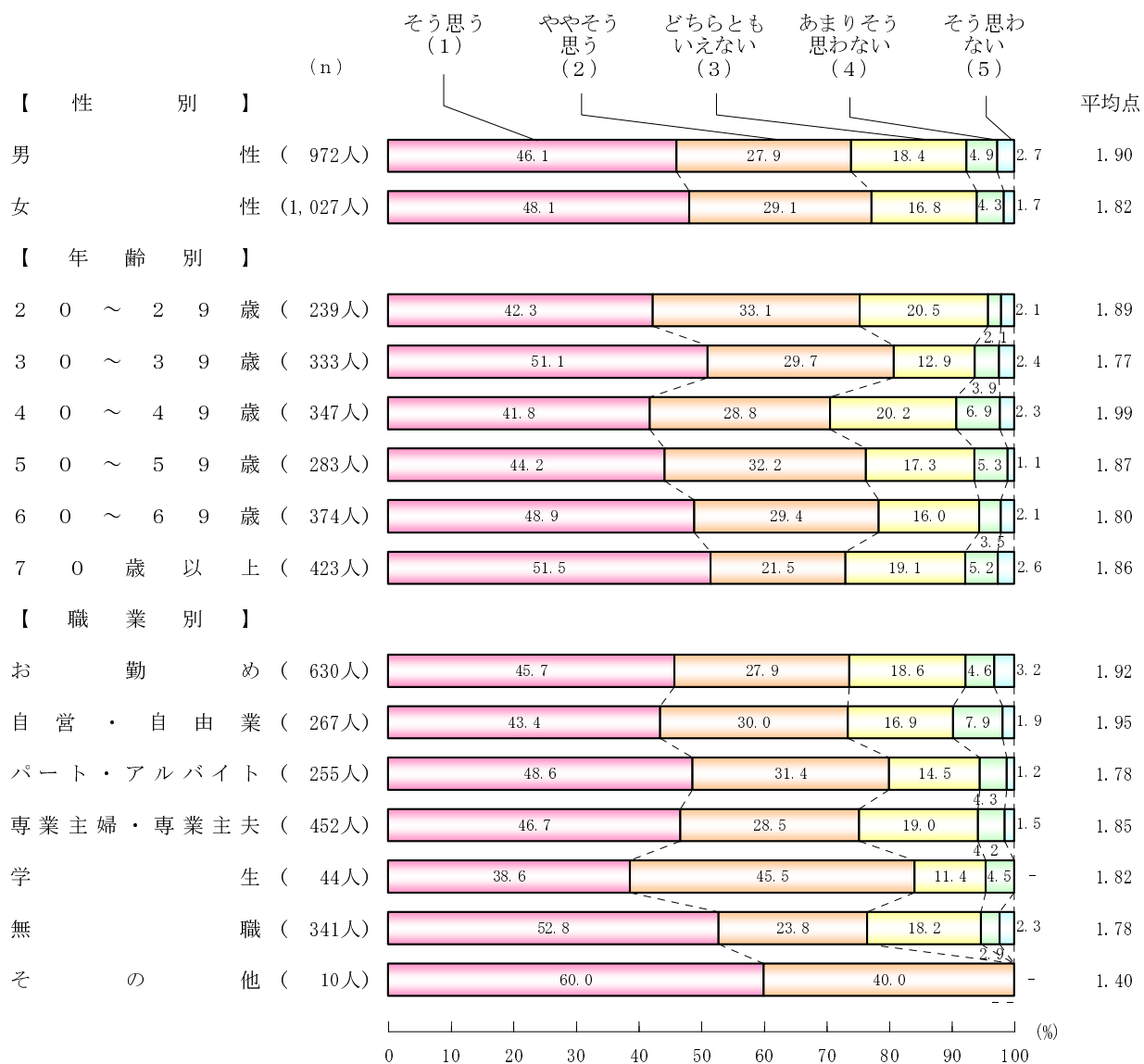


『事件の真相が解明されている』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、70歳以上が最も高く、職業別では、無職が最も高くなっている。

Q 4 (g) 裁判の手續や内容が難しい, わかりにくい

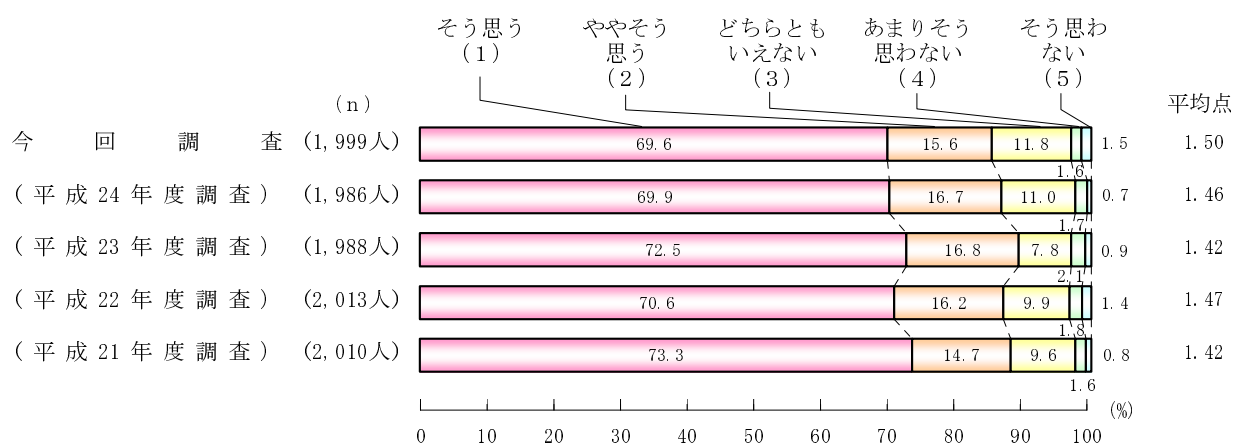


裁判員制度が始まる前の『裁判の手續や内容が難しい, わかりにくい』という印象では, 『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は75.6%, 『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は6.8%である。

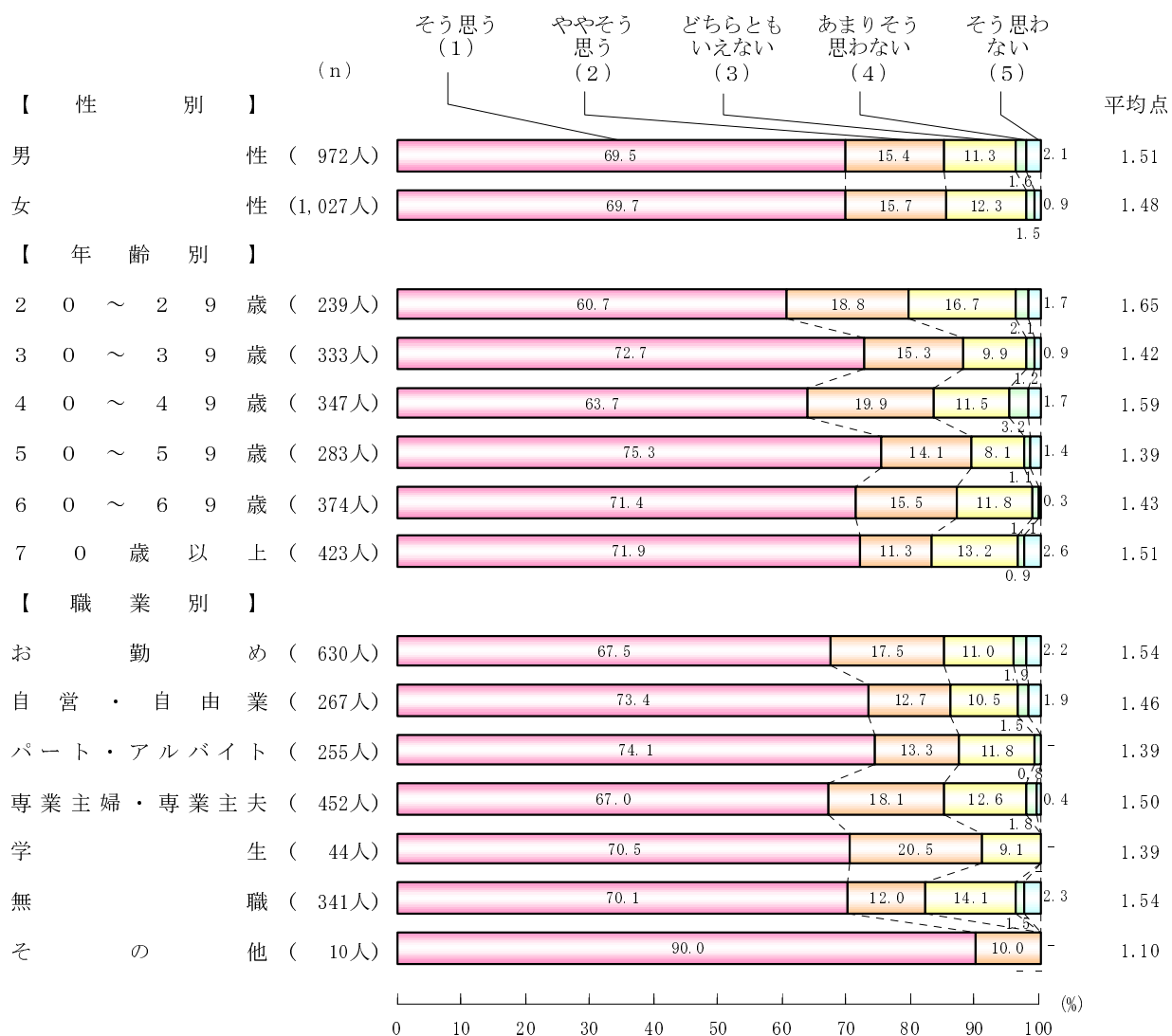


『裁判の手續や内容が難しい, わかりにくい』という印象について, 『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は, 男女別にみると, 大きな差はみられない。年齢別では, 30代が最も高くなっている。職業別では, 学生が最も高くなっている。

Q 4 (h) 裁判に時間がかかる

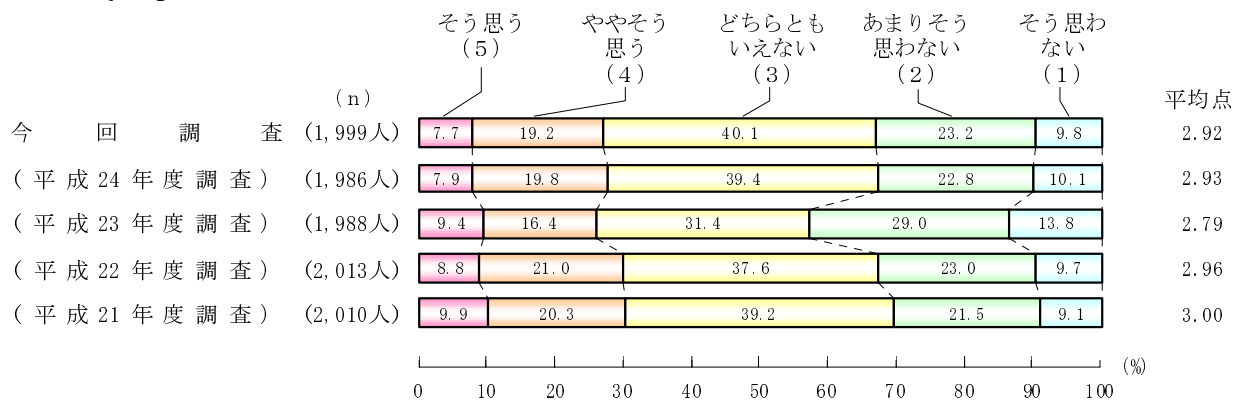


裁判員制度が始まる前の『裁判に時間がかかる』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は85.2%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は3.1%である。

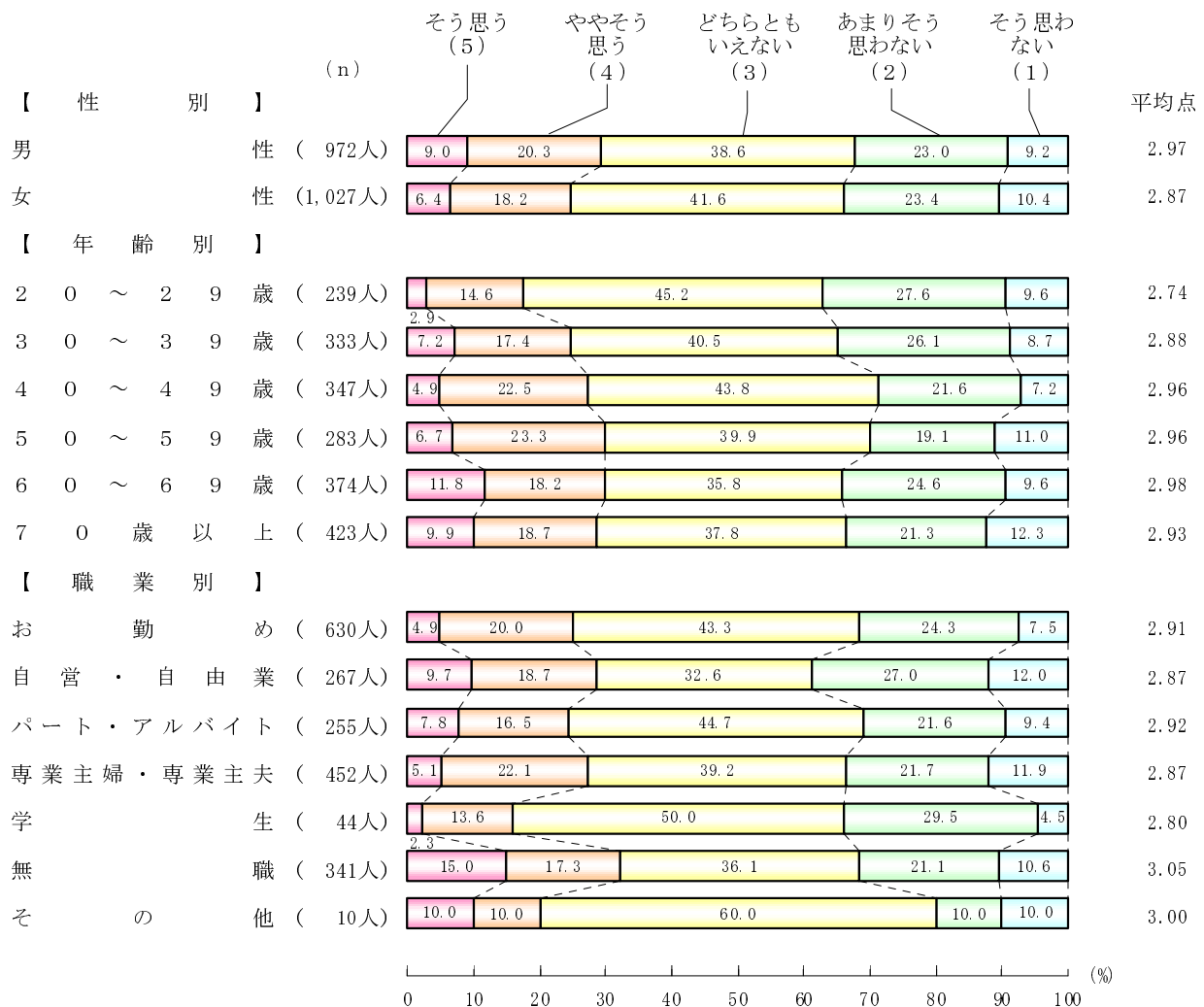


『裁判に時間がかかる』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、20代が最も低く、職業別では、無職が最も低くなっている。

Q 4 (i) 刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が高く自分の問題として考えている



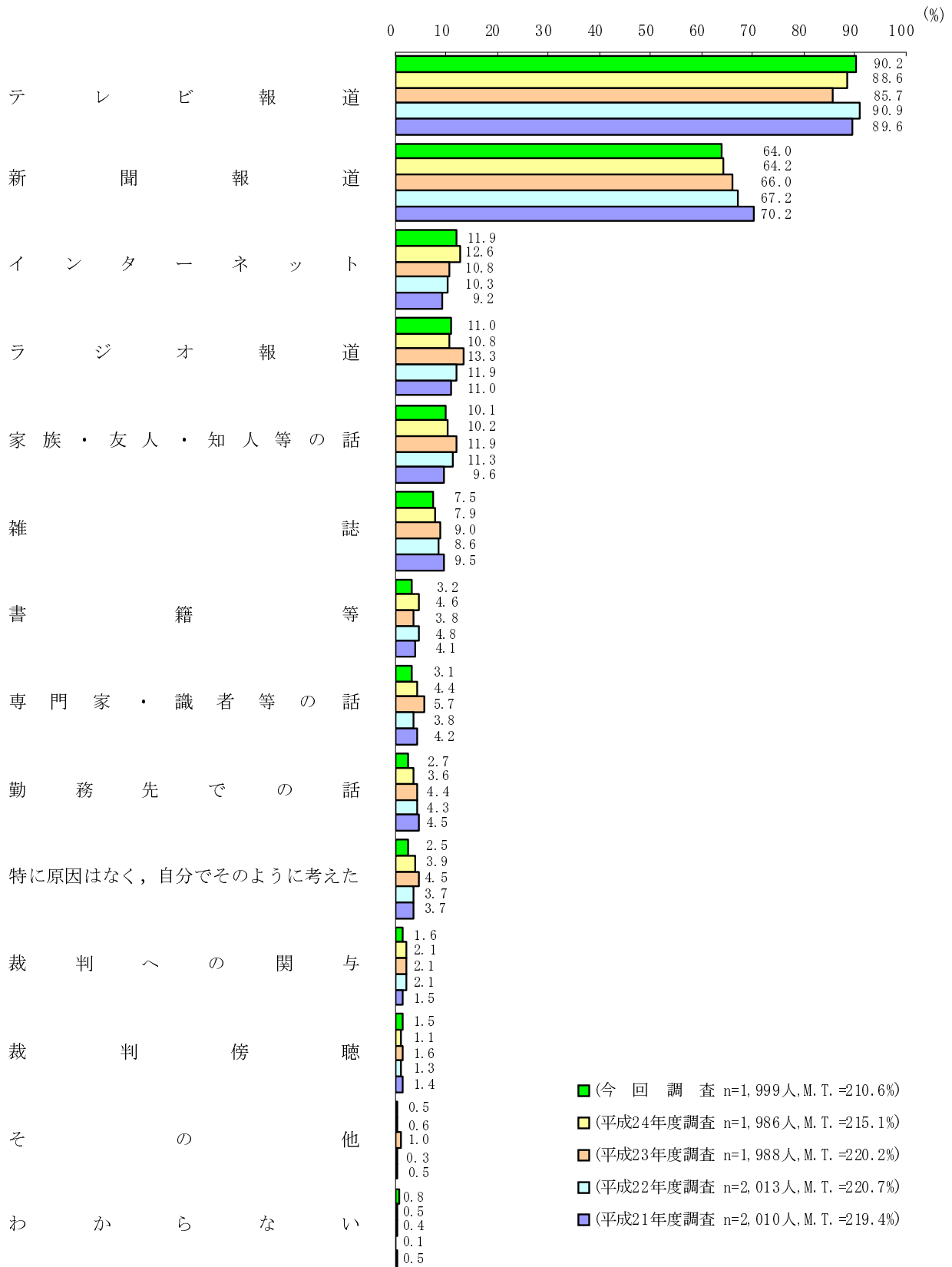
裁判員制度が始まる前の『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が高く自分の問題として考えている』という印象では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は26.9%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は33.0%である。



『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が高く自分の問題として考えている』という印象について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、男性が高くなっている。年齢別では、20代が最も低く、職業別では、無職が最も高い。

5 裁判員制度が始まる前の刑事裁判についてQ4の印象を持つことになった原因

Q5 [回答票5] あなたが前問のような印象を持つことになった原因は何ですか。当てはまるものを、次の中から全てあげてください。(M.A.)



裁判員制度が始まる前の刑事裁判についてQ4の印象を持つことになった原因を聞いたところ、「テレビ報道」が90.2%と最も高く、次いで「新聞報道」が64.0%であった。以下、「インターネット」(11.9%)、「ラジオ報道」(11.0%)、「家族・友人・知人等の話」(10.1%)となっている。

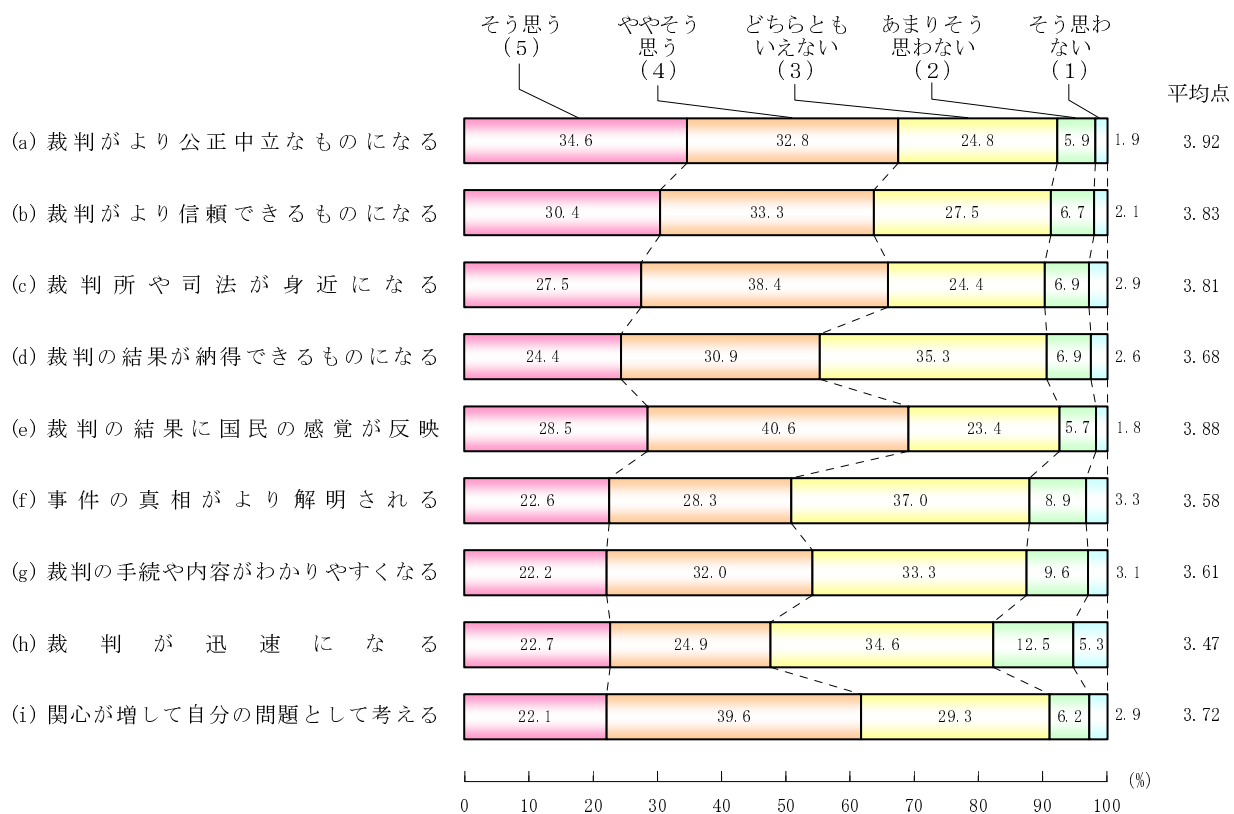
	該当数 (n)	新聞報道	雑誌	書籍等	テレビ報道	ラジオ報道	インターネット	裁判への関与	裁判傍聴	家族・友人・知人等の話	勤務先での話	専門家・識者等の話	特に原因はなく、自分でそう考えた	その他	わからない	回答計
【性別】																
男性	972	69.9	9.0	4.7	90.1	14.3	15.6	2.1	1.9	8.5	3.6	4.1	2.7	0.8	0.4	227.7
女性	1027	58.5	6.0	1.8	90.3	7.9	8.4	1.1	1.2	11.6	1.9	2.1	2.3	0.2	1.2	194.4
【年齢別】																
20～29歳	239	38.1	1.3	2.1	86.2	5.9	23.8	0.8	2.9	10.9	2.9	0.8	3.8	1.3	2.1	182.8
30～39歳	333	51.1	4.8	3.0	90.1	7.8	17.7	0.6	0.3	9.6	2.7	1.2	3.0	0.6	0.6	193.1
40～49歳	347	62.8	7.2	2.9	90.8	8.6	16.4	1.7	2.0	8.4	3.2	4.6	3.7	0.6	-	213.0
50～59歳	283	69.6	13.1	4.9	90.5	13.1	13.8	3.2	2.5	13.1	3.2	5.3	1.4	-	1.1	234.6
60～69歳	374	79.4	9.9	2.9	91.4	15.2	5.3	2.1	1.3	10.7	4.0	4.0	1.9	0.3	0.8	229.4
70歳以上	423	72.6	7.3	3.3	90.8	13.2	1.4	0.9	0.7	9.0	0.7	2.4	1.7	0.5	0.7	205.2
【職業別】																
お勤め	630	62.9	8.3	3.8	90.3	12.4	19.8	1.9	1.6	7.9	5.1	3.5	3.0	0.6	0.5	221.6
自営・自由業	267	71.9	8.2	3.4	90.3	16.1	10.9	1.1	1.9	11.6	1.5	3.0	1.5	0.4	0.7	222.5
パート・アルバイト	255	49.8	5.1	2.0	89.0	6.7	10.2	0.8	1.6	12.2	2.4	2.0	3.5	0.4	0.8	186.3
専業主婦・専業主夫	452	62.6	6.0	2.0	90.3	8.2	5.8	1.3	0.7	12.2	1.3	2.4	1.8	-	1.1	195.6
学生	44	45.5	-	6.8	88.6	-	29.5	2.3	6.8	9.1	-	4.5	2.3	4.5	2.3	202.3
無職	341	74.8	10.0	4.1	90.6	13.2	5.0	2.1	1.5	8.5	1.8	3.8	2.6	0.6	0.9	219.4
その他	10	70.0	10.0	-	100.0	-	20.0	-	-	20.0	-	10.0	-	-	-	230.0

男女別にみると、「テレビ報道」は大きな差はみられないが、「新聞報道」、「ラジオ報道」、「インターネット」は男性で高くなっている。年齢別では、「新聞報道」は50代以上で、「インターネット」は40代以下でそれぞれ高くなっている。

6 裁判員制度の実施により期待すること

Q 6 [回答票 6] あなたが裁判員制度の実施により、期待することは何ですか。次の (a) ~ (i) の項目について、次の中から最も当てはまるものを1つ選んでください。

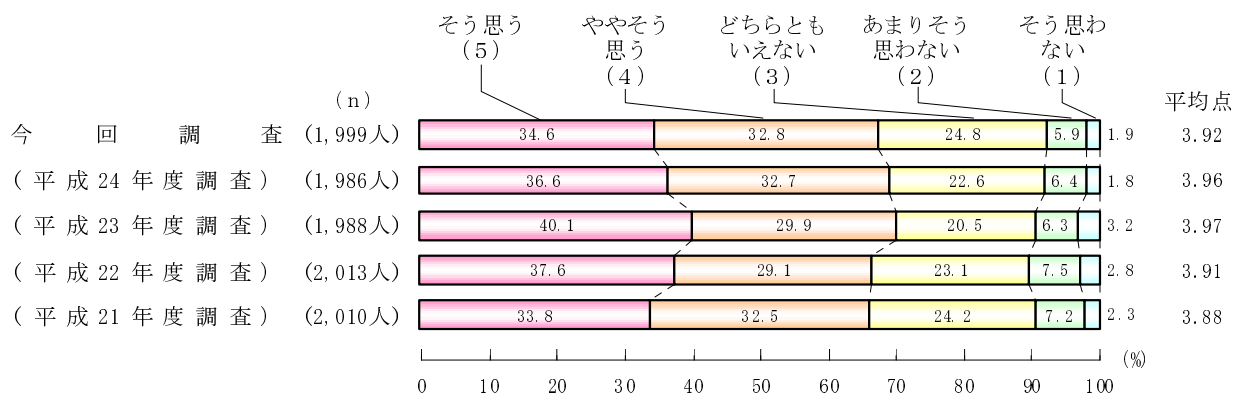
(n=1,999 人)



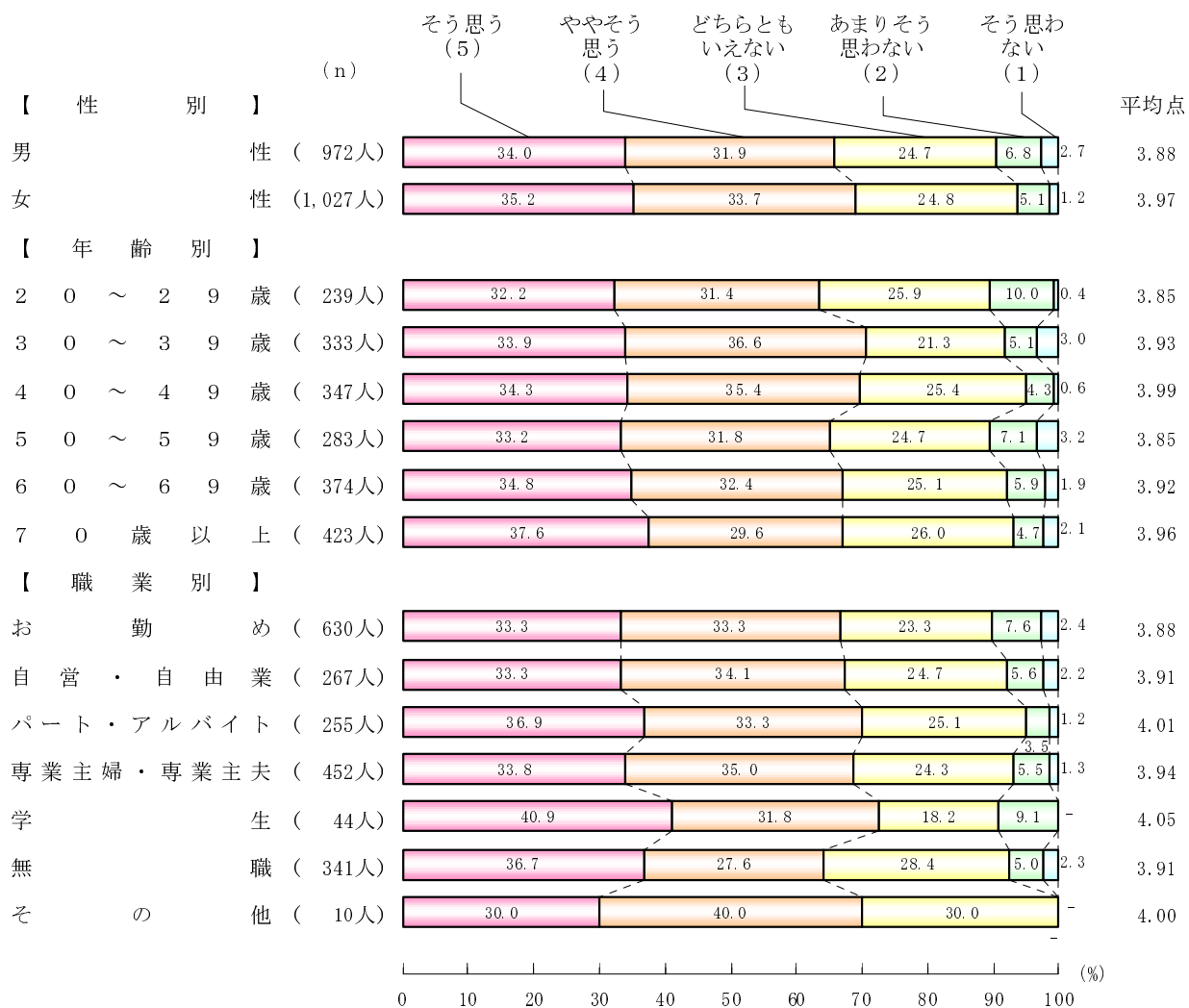
* 平均点は「そう思う」5点、「ややそう思う」4点、「どちらともいえない」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点でウエイト処理したものである。

裁判員制度の実施により期待することを、9項目の内容について聞いたところ、平均点が最も高かったのが『裁判がより公正中立なものになる』(3.92点)、以下、『裁判の結果(判断)に国民の感覚が反映されやすくなる』(3.88点)、『裁判がより信頼できるものになる』(3.83点)、『裁判所や司法が身近になる』(3.81点)、『刑事裁判や司法など公の事柄について、国民の関心が増して自分の問題として考えるようになる』(3.72点)、『裁判の結果(判断)がより納得できるものになる』(3.68点)、『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』(3.61点)、『事件の真相がより解明される』(3.58点)、『裁判が迅速になる』(3.47点)となっている。

Q 6 (a) 裁判がより公正中立なものになる

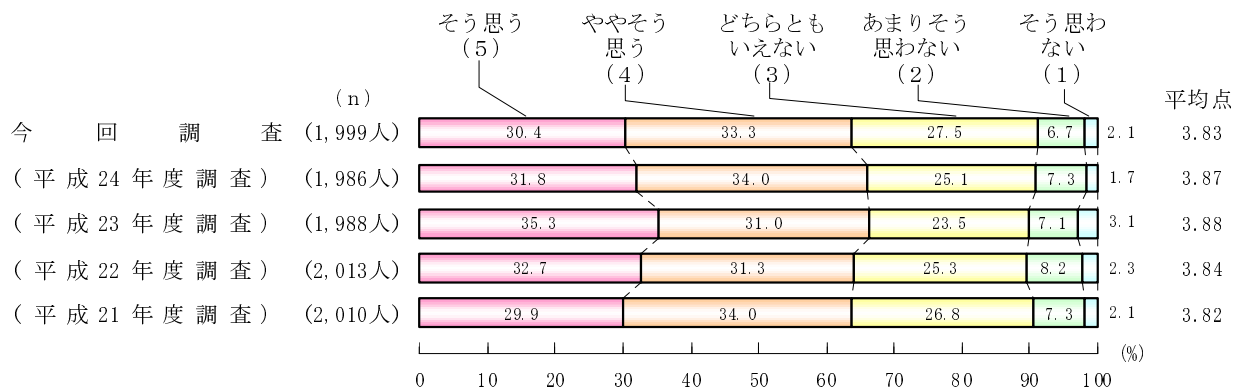


裁判員制度の実施により『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は 67.4%，『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は 7.8%である。

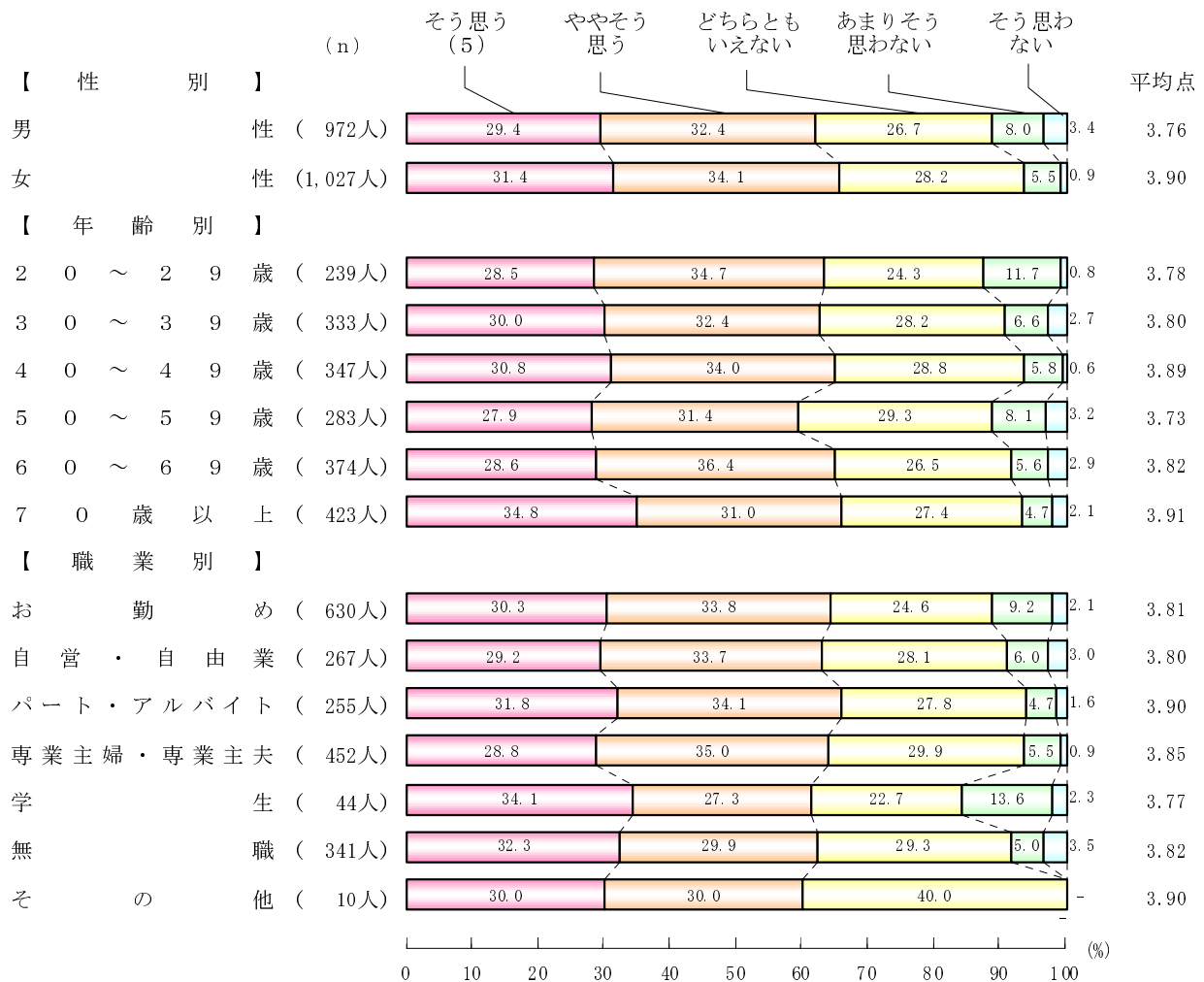


『裁判がより公正中立なものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、20代が最も低く、職業別では、無職が最も低くなっている。

Q 6 (b) 裁判がより信頼できるものになる

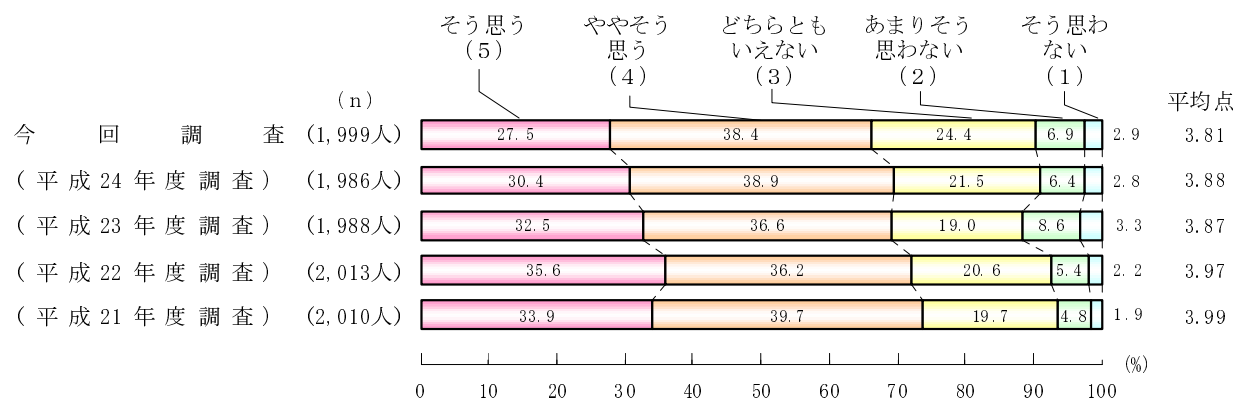


裁判員制度の実施により『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は63.7%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は8.8%である。

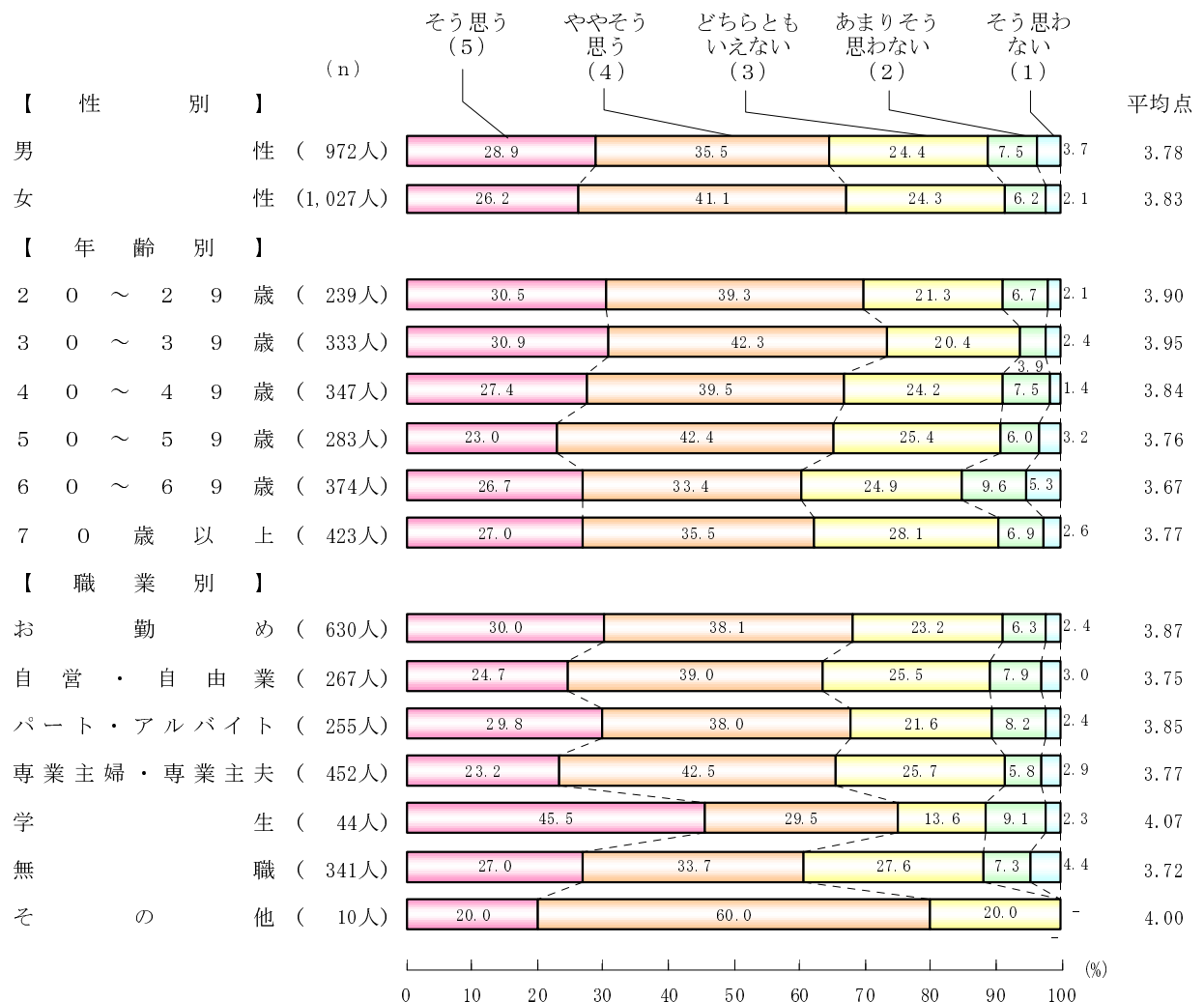


『裁判がより信頼できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。また年齢別や職業別でも、大きな差はみられない。

Q 6 (c) 裁判所や司法が身近になる

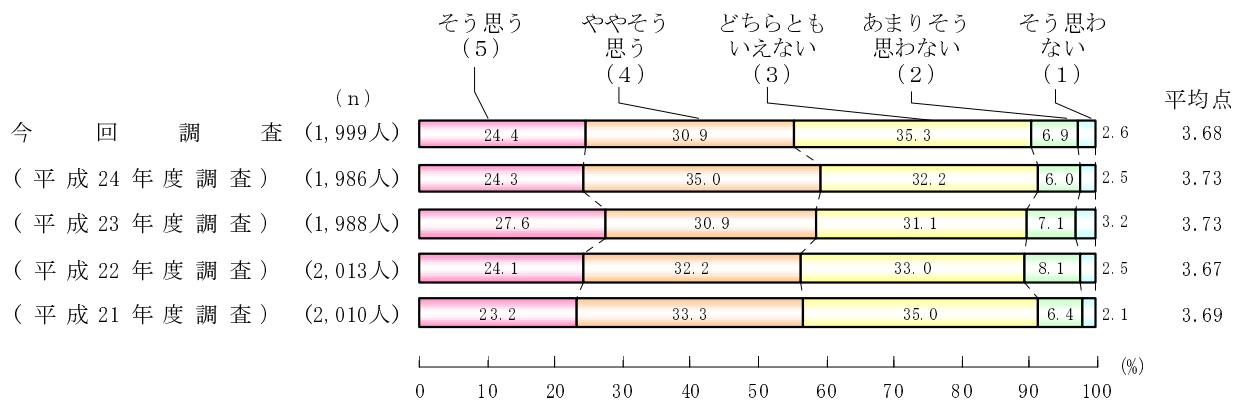


裁判員制度の実施により『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は65.9%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は9.8%である。

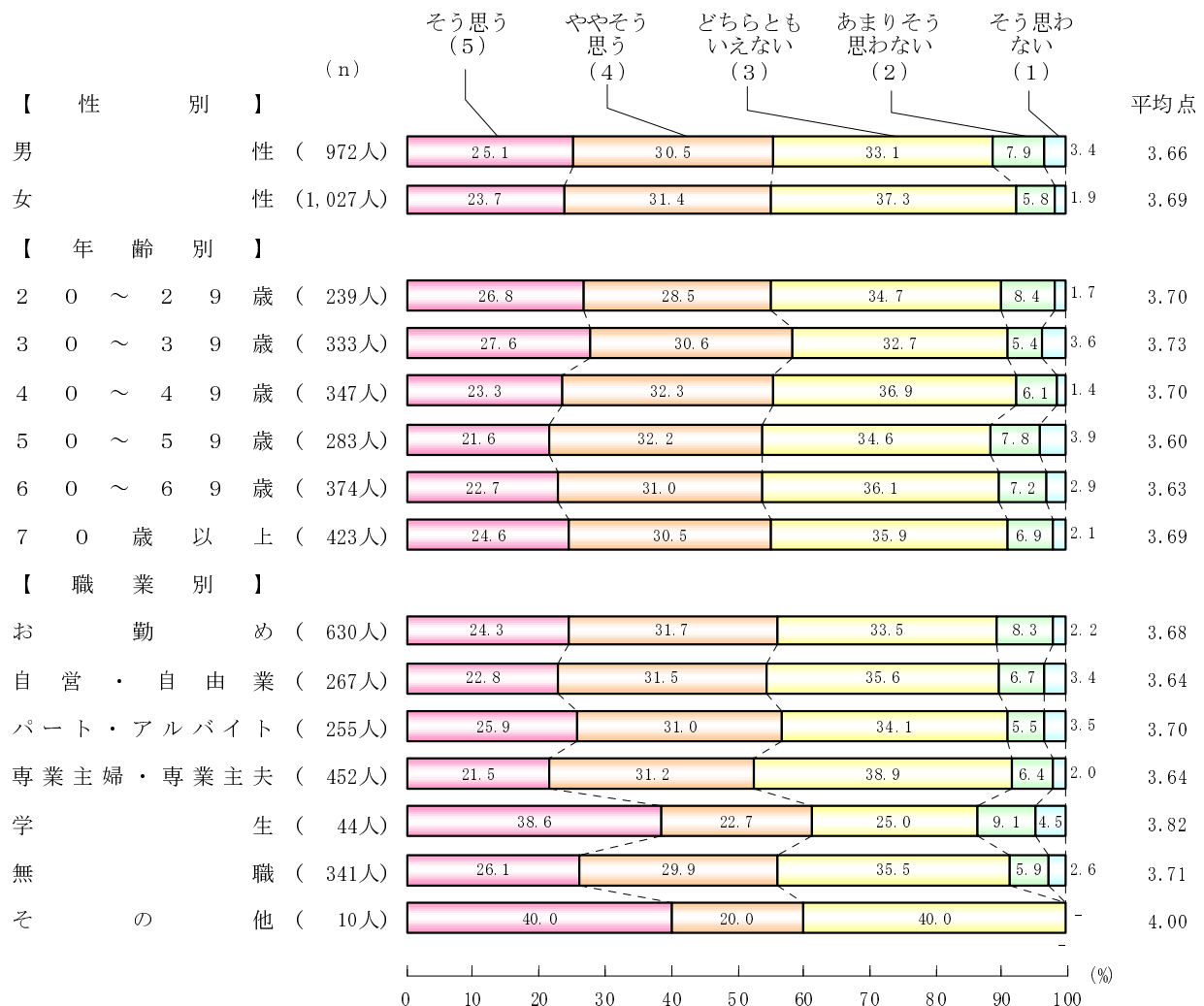


『裁判所や司法が身近になる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、30代が最も高く、60代が最も低くなっている。職業別では、無職が最も低くなっている。

Q6 (d) 裁判の結果 (判断) がより納得できるものになる

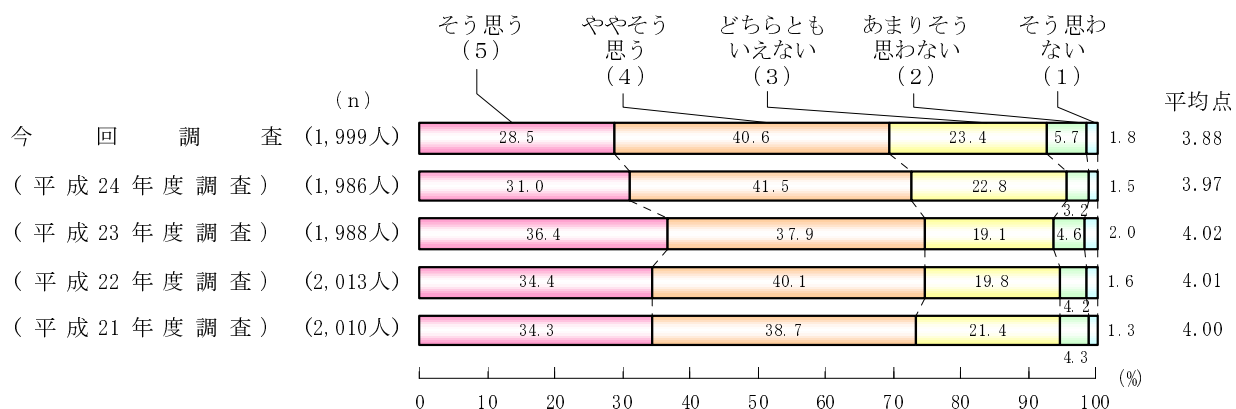


裁判員制度の実施により『裁判の結果 (判断) がより納得できるものになる』ことに対する期待では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は55.3%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は9.5%である。

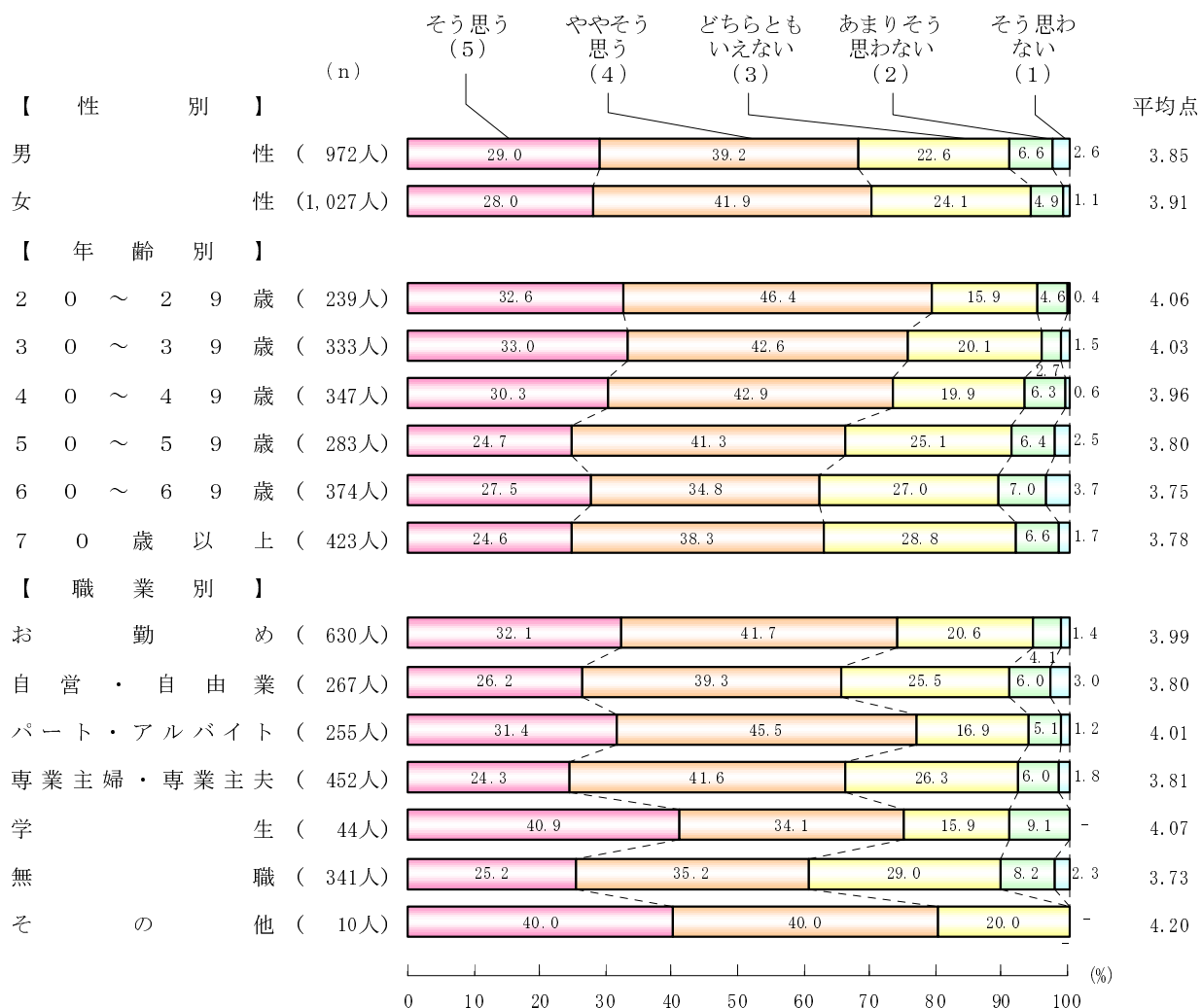


『裁判の結果 (判断) がより納得できるものになる』ことに対する期待について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は、男女別・年齢別では、大きな差はみられない。職業別では、学生が最も高くなっている。

Q6 (e) 裁判の結果 (判断) に国民の感覚が反映されやすくなる

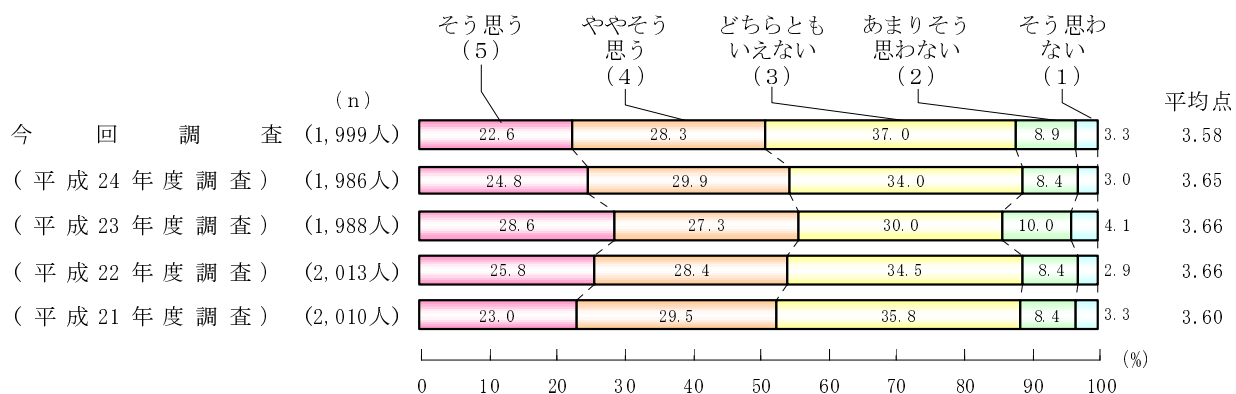


裁判員制度の実施により『裁判の結果 (判断) に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)は69.1%、『そう思わない』(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)は7.5%である。

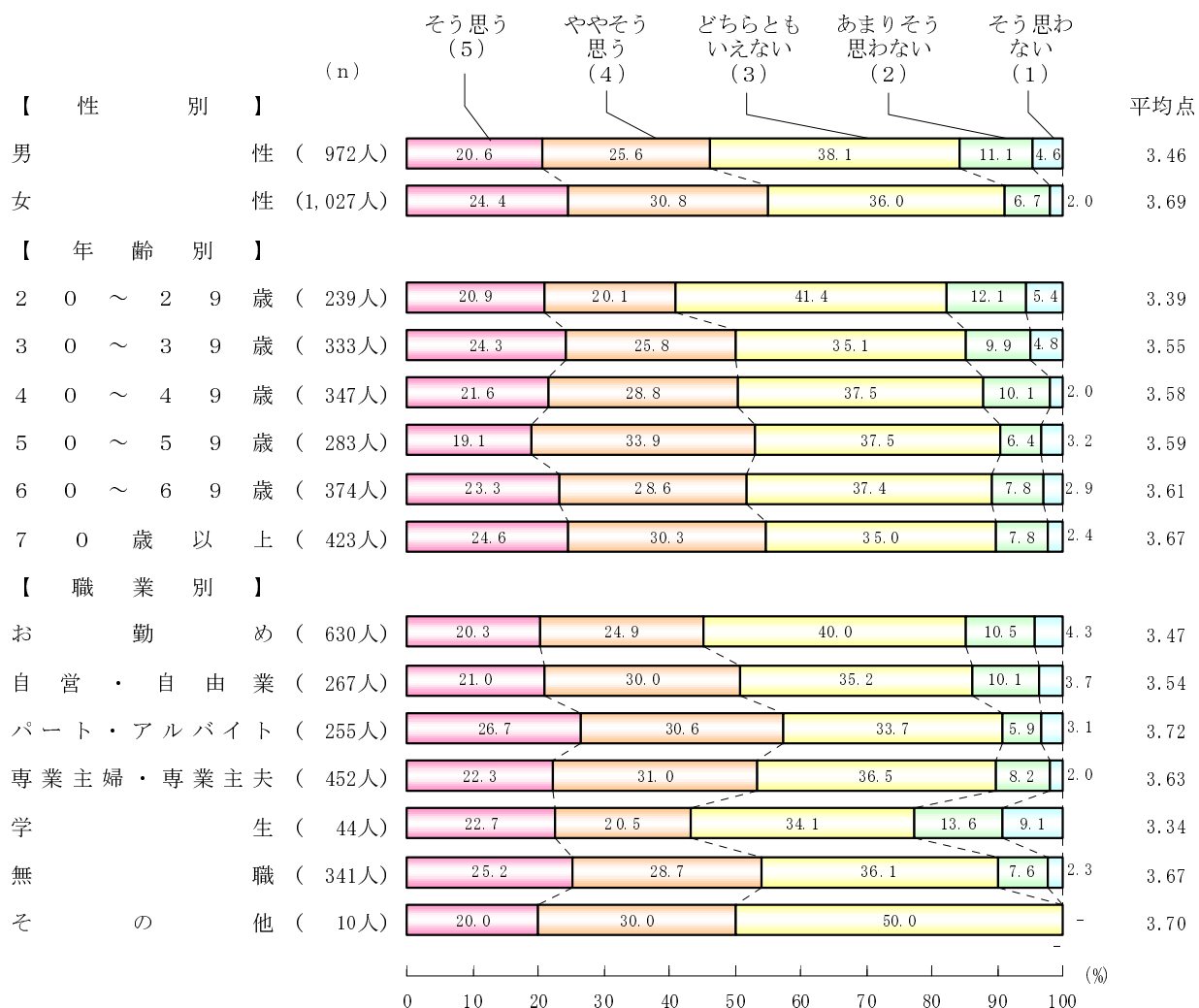


『裁判の結果 (判断) に国民の感覚が反映されやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、20代が最も高く、60代以上で低くなっている。職業別では、パート・アルバイトが最も高く、無職が最も低くなっている。

Q 6 (f) 事件の真相がより解明される

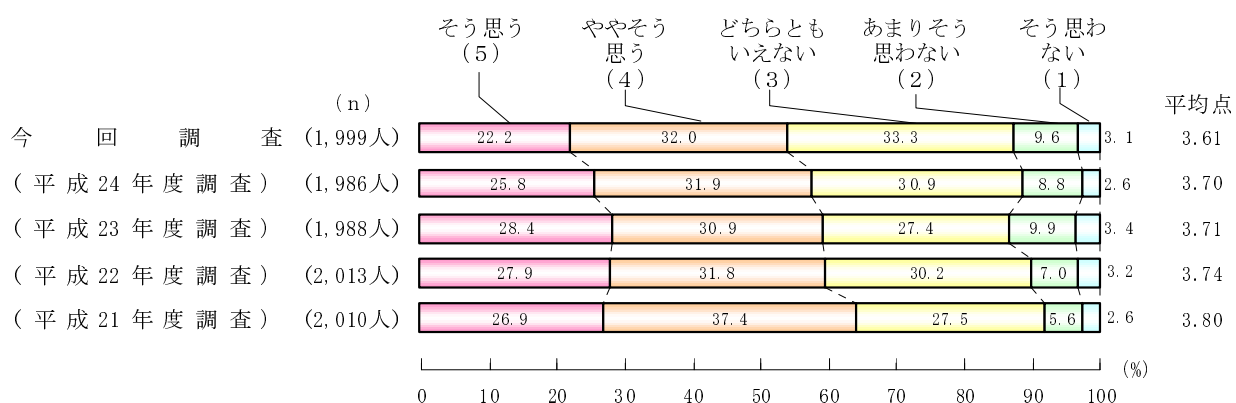


裁判員制度の実施により『事件の真相がより解明される』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は50.9%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.2%である。

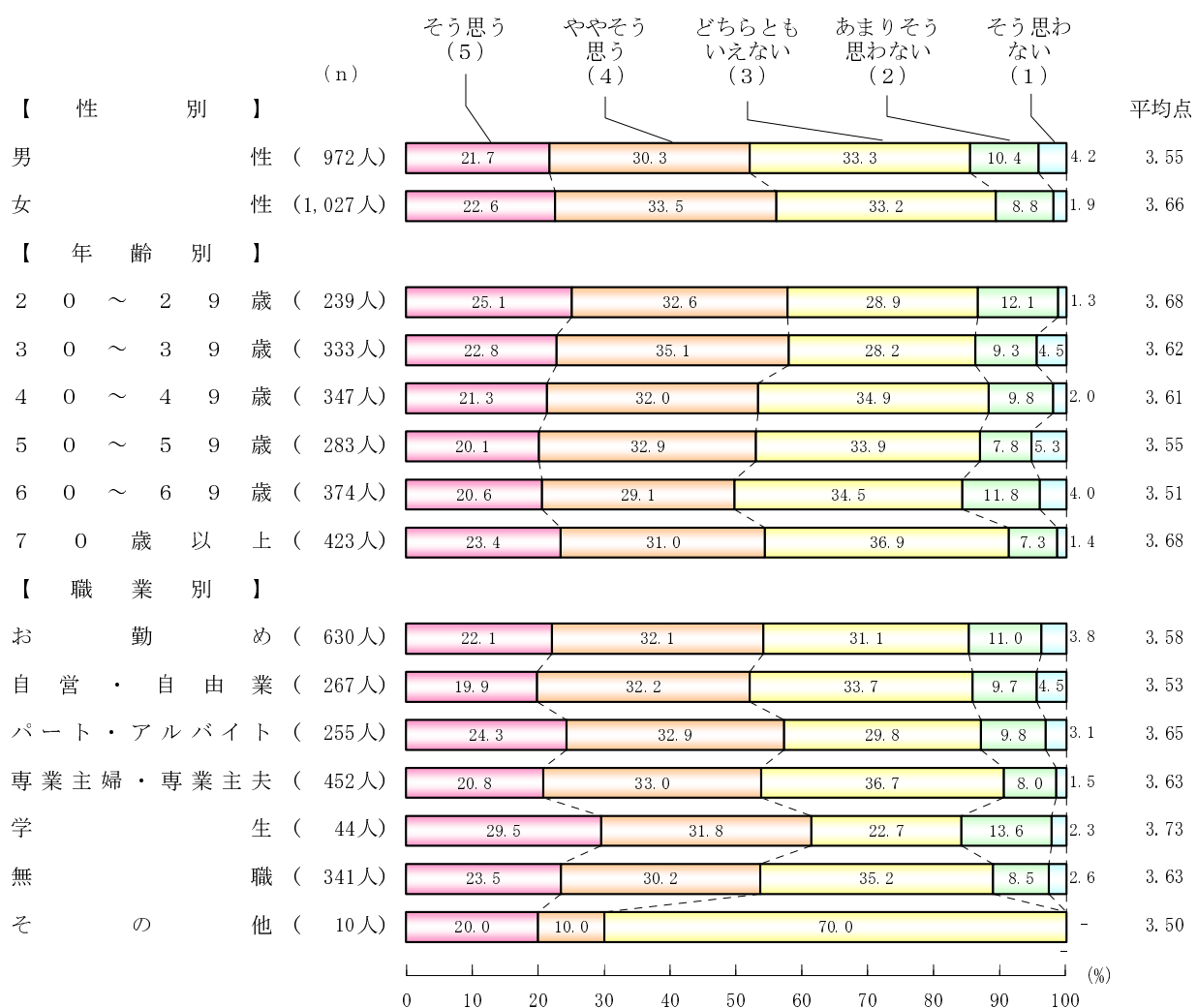


『事件の真相がより解明される』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、女性が高くなっている。年齢別では、20代が最も低くなっている。職業別では、パート・アルバイトが最も高く、学生が最も低くなっている。

Q 6 (g) 裁判の手續や内容がわかりやすくなる



裁判員制度の実施により『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待では、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）は54.2%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）は12.7%であった。



『裁判の手續や内容がわかりやすくなる』ことに対する期待について、『そう思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）と答えた者の割合は、男女別にみると、大きな差はみられない。年齢別では、60代が最も低く、職業別では、学生が最も高くなっている。